

第付4表 北緯30度以北付近で最低又は再発達した台風(昭和24~46年)

項目 No.	台 風			最低又は再発達したとき			位 置	備 考	水温*3	
	年 月	番 号	最低気圧	月 日 時	中心気圧	下降量*2				
	昭和			mb					°C	
1	24	8~9	No. 10	956	8 31 15~21	956	4	関東沖	最 低	27
2	26	6~7	No. 7	975	7 1 15	975	5	・九州付近	〃	25
3	27	6	No. 2	960	6 23 17~20	968	2	四国沖	再発達	25~27
4	27	7	No. 4	990	7 15 3	995	1	・九州付近	〃	28
5	28	5~6	No. 2	942	6 7 6	982	2	・〃	〃	24
6	30	7	No. 8	995	7 16 9~15	995	3	四国沖~・九州付近	最 低	27
7	30	7	No. 9	965	7 22 15	965	5	関東沖	〃	27
8	30	10	No. 26	982	10 20 9	985	10	四国沖	再発達	25
9	32	8~9	No. 10	950	9 6 21	956	2	・九州付近	〃	26~27
10	36	7~8	No. 10	972	8 2 9~15	986	1	・〃	〃	27
11	37	8	No. 13	975	8 20 3~21	980	2	・〃	〃	28~29
12	40	7~8	No. 15	940	8 6 3	940	5	・〃	最 低	27
13	42	8	No. 18	980	8 22 3~15	980	5	四国沖	〃	28~29
14	46	8~9	No. 23	915	8 29 15	915	5	・九州付近	〃	27~28

注) (1) *₁: 発生から消滅の月を示す. (2) *₂: 前の天気図時刻からの下降量を示す
(3) *₃: 水温は台風の位置付近の旬の表面海水温を示す

気圧が一番低くなったもの、または再発達した台風を調べてみると、第付4表および第付3図に示す通り、昭和24年以降(それ以前は、台風位置表が作成されていないので調査できなかった)、14個を数え、そのうち8個が九州近海で発現している。これは黒潮が大きく影響しているのではないかと推測されるが、立証することができなかった。今後の調査に待つことにしたい。

文 献

- 伊藤亀雄, 1968: 太陽黒点と超大型台風の出現, 東海地方気象研究会誌, 22,
 斉藤練一ほか, 1972: 集中豪雨に関する注意報・警報作業上の問題点の調査報告, 測候時報, 39, 172-203.
 館 知之, 1961: 台風に関する2, 3の統計的調査(第2報), 天気, 11, 387-393.
 高橋浩一郎, 1961: 応用気象論, 岩波書店, p 134.

—会員の広場—

サクラの寝不足

子供は寝不足だと、グズったりして機嫌の悪いものである。

サクラにもこの寝不足があるらしい。暖地のサクラは冬に暖かいと、じゅうぶんに休眠がとれないので、開花がおくれたり、ひどいときには花が咲かないことがあるようだ。山形名産のサクランボも、暖冬の年には生産が落ちるといふ。これも睡眠不足が、開花に影響している結果だろう。

ソメイヨシノについて調べてみると、冬の気温が高い

ために、開花がおくれるのは、だいたい南海道の地方で高知などはかなりこの傾向が強い。九州は南部地方が、その範囲に入るが、鹿児島などは必ずしもそうではないようである。屋久島は、もっとも顕著で、あるいは開花しない年もあるかも知れない。

植物の分布は、日長時間に左右されることは、周知のことだが、日長に比較的不感症な木本類では、その南限を決めているのは、あるいは冬の気温かも知れない。冬が暖かければ、開花ができず、したがって子孫を残すことができないからである。

(大阪管区気象台 安藤 隆夫)